

株式会社ジェイコムイースト 小田原局

2017年度 放送番組審議会 議事録

2017年度の放送番組審議会は、2018年3月20日(火)に小田原局で開催された。

<放送番組審議会委員> (五十音順)

—ご出席—

磯崎 哲也 様	長谷川 孝春 様	宮川 萬寿美 様
山岡 弘 様	芳澤 一夫 様	

—ご欠席—

秋谷 勉 様	柳川 ひとみ 様	柳下 登 様
--------	----------	--------

委員の互選により、会長には芳澤氏が、副会長には宮川氏が選任された。

その後、事業者側から局の現況、及びJ:COMチャンネル(11ch)とJ:COMテレビ(10ch)について報告があった。

【質疑応答・意見交換】(芳澤会長による進行)

委員 J:COMチャンネル(各地域独自編成のコミュニティチャンネル)には、神奈川県全域で放送される番組があるとの説明があったが、首都圏全域のものはあるか？

事業者 首都圏全域で放送される番組もある。また、J:COMテレビは、全国同一の編成で番組を放送している。

委員 商工会議所では創業セミナーを開催しているが、開催告知を地元だけにしてしまうと小規模になるので、首都圏全域に向けて呼びかけができればいいなと思っている。お金の問題はあるが、J:COMチャンネルという映像メディアを活用した首都圏全域への開催告知は新たな切り口になると思う。

委員 J:COMの番組を通して、地域で頑張っている沢山の方々を知ることができた。地域メディアであるケーブルテレビの役割は大きいと感じた次第だ。

委員 J:COMの強みは地域情報を発信している点だと思う。そういう意味で、地域イベントの番組に数多くの地域住民が映るのは非常に良いことだ。また、ツイッターで視聴者の感想や意見を紹介していたところも評価できる。ただ、番組内でインタビューされ

るのは主催者や行政の長が多いように感じた。是非、参加者の声も紹介して欲しい。そうすれば、イベントの様子がもっと上手く視聴者に伝わるだろう。

委員 台風のニュースの際、その映像がとてもリアルで、大きな波が押し寄せていたことや河川が危険な水位になっていたことを知ることができた。このような情報は地域住民が知っておくべきことなので、ケーブルテレビの役割として期待したいところだ。また、これまでの災害情報をまとめて災害時の対処法を紹介する防災番組を放送し、かつ先程紹介された地域情報アプリ「ど・ろーかる」(J:COMで放送中の地域のニュースやお祭り、花火大会の生中継などを外出先でもスマホやタブレットで視聴できるアプリ)にもアップして欲しい。

色々な地域行事を特別番組として放送しているが、主催者が登場し、イベント内容を時系列で紹介し、お年寄りや子供たちのインタビューを盛り込むといった具合に、どの番組も構成が似ているような気がした。行事毎に番組構成を大胆に変えるという視点も必要だと思う。

サッカー番組はないのか？サッカー人口は多いと思うのだが。

事業者 少年サッカーの放送については、放送を行いたい意向はある。従来サッカーの放送を担っている事業者や各種団体に働きかけを行っていききたい。

委員 東日本大震災から7年になるが、防災情報は大事だ。例えば、先日、近所で大きな火事があった。すぐさま知人が心配して電話してきたり、外に出るとどこそこが燃えているなどの声が聞こえてきたりして、情報の伝達はすごいなと感じた。同時に、J:COMのコミュニティチャンネルをつけて、その火事の情報が分かればどんなに素晴らしいかと思った。

委員 南足柄市出身の女子サッカー選手が、先日、日本代表の強化合宿に初招集された。それぞれの地域に有望なスポーツ選手がいるので長期取材をしてドキュメンタリー番組を放送して欲しい。

委員 このような有望選手や地域の小さなイベントなど、情報収集に苦労されていると思うので、どんどんJ:COMに情報を提供しよう！

委員 J:COMは神奈川県内でどこかの記者クラブに入っているのか？

事業者 鎌倉市の記者クラブにのみ入っている。

委員 各地の記者クラブに入っていると、最新情報を収集でき、かつ取材許諾も容易に

得ることができるので加入を検討してみてもどうか！

委員 記者クラブに入らない理由はあるのか？

事業者 放送エリア内の行政数に対して弊社の制作スタッフ数が少なく、全て回り切れないという事情がある。現在は、行政の広報担当者から個別にファックスやEメール等で情報をお送り頂いている。

事業者 また、記者クラブには輪番制があって、夜でも駆けつけるという義務が生じるが、弊社の少人数体制では対応できない。とは言え、最近は報道機関としての役割も担わねばという機運が生まれている。そこで、これまでの生活情報に加え、防災情報の発信に力を入れ始めている。

事業者 具体的には、今年度も台風や大雪の際には重点的に情報発信したほか、大地震を想定した緊急特別番組の訓練を行った。ただ、地域密着メディアである弊社としては、被災直後の惨状を映像で見せるようなことでなく、危険エリアの特定や避難所開設の有無、ライフラインの情報など地域住民に役立つ情報を長期継続的に伝えることが大事であると考えている。

委員 映像の力はとても大きい。

委員 良い意味での危機意識が醸成されるだろう。災害時には定点カメラの映像であっても有益な情報になる。

事業者 実は、防災の観点もあり、地域情報アプリ「ど・ろーかる」では、全国にある50 数カ所の定点カメラの映像を見ることができる。今後も定点カメラを増やすなどして、中期的に防災報道に取り組んでいきたいと考えている。

委員 報道専門のスタッフが常駐している訳ではないので大変な取り組みだと思うが、防災情報の発信によりJ:COMの存在意義は大いに高まることになるだろう。

委員 学習指導要領の改訂により、保育園や幼稚園では防災意識を養うために定期的に地震や火災等に備えた訓練を行っている。このことから、防災教育となるような番組があれば良いなと考えている。

事業者 東日本大震災から7年を迎えるにあたって、3月5日から9日の間、「デイリーニュース」の中で防災特集を組んだ。その中で、開成町の方々が寸劇や朗読を通して

子供たちに地震への対応を教える取り組みなど、地域における防災活動を紹介した。今後、関連番組として、台風などの災害時に家庭レベルや自治会レベルでどのような行動をしたのか、どのような問題があったのかを検証し、情報共有できる番組も作ることができればと思っている。

委員 番組作りにおいて、現在起きていることをリアルに伝える報道的視点も重要だが、対応方法などを学べる教育的視点も大事だと思う。

最近のイベントや施設は、小さい子供をメインターゲットにし、その保護者と祖父母も集客するというものが多い。テレビ番組も同様で、幼児から小学生に焦点を当てた番組を放送すれば、3世代に楽しんでもらうことができるだろう。

事業者 小学生に焦点を当てた番組の例としては、他のエリアでの放送になるが、「わくわく1年生」がある。この番組は小学1年生に「将来の夢」と「その理由」を聞くものだが、その後、出演した小学1年生が二十歳になって迎える成人式で流そうという長期計画がある。この番組を立ち上げたJ:COM市川では、既に成人式で過去の映像を流した実績があり、新成人を始め来場者に大変喜ばれた。この番組は、映像が宝になることを示してくれている。ただ、現在は小さい子供を映すことが難しい時代になっているので、関係者への確認と配慮を充分に行い、番組を作っている。

委員 確かに子供を取り上げる際の難しさがある。小学校への取材はNGとなるケースが多い。それでも、できるだけ多くの子供たちには番組に出てもらいたいので、子供たちが番組に出演しやすくなる方法を研究して欲しい。

現在、小田原市は市内を25地区に分けて、地域の課題は地域で解決しようという取り組みを進めている。それぞれの地区で、福祉・防災・教育・子育て・環境など、テーマを決めて活動が展開されているので、是非取材して欲しい。番組で取り上げられると、当該地区の励みにもなるし、他の地区は刺激を受けることになると思う。

委員 2019年は北条早雲没後500年の節目の年となる。前年の2018年から「北条早雲公顕彰五百年事業」が展開されるので、多くの小田原市民に見てもらえるよう、番組を企画して欲しい。

また、地域の方から動画や写真の投稿を募集してはどうか。そうすれば、J:COMはエリア内の様々な映像を入手できることになる。一方、投稿者はJ:COMに興味を持つだろうし、投稿動画等が採用されたとなればネット上での拡散効果も期待できる。

委員 地域情報アプリ「ど・ろーかる」は相当予算をかけているという印象を持った。本社主導のサービスということだが、各放送エリアでそれぞれの地域版を運営して欲しい。具体的には、トップ画面が小田原で、そこから全国各地へ移動するというインデッ

クス上の違いだけになるかもしれないが、小田原に特化したアプリを作ってはどうか！

事業者 このアプリは、まさに発展途上にある。ネット上なので、いくらでもコンテンツを増やすことができるし、広告掲載など色々な発展が期待できる。最近は、コミュニティチャンネルでなく、このアプリで J:COM の番組を見たという方も増えている。

委員 このアプリの中に就職情報はあるのか？

事業者 就職情報はない。

委員 就職する場合、その地域の文化や歴史を知らないと働き辛い面もある。小田原市にも他の地域から多くの方が働きに来ている。このアプリで地域の情報を知ることができるのだから、それに加えて、就職情報もあればよいと感じた。

また、子育て中のお母さんは情報交換を兼ねてイベントに参加したいというニーズを持っているので、地域イベントの情報も欲しい。

委員 空家情報もあると地域にとって良いのでは。

委員 本日は、貴重なご意見やご提案を頂き、御礼を申し上げます。

以上